

エグゼクティブサマリ

監視カメラへの期待は高まり続け、いまではその利用シーンに広がりを見せております。カメラには防犯カメラや情報カメラなど、用途により呼び方が異なりますが、インターネットの普及に伴って出現したネットワークカメラがそれらをも包括しています。このカメラですが、IoTセンサーとしても扱われ始め、人間の眼に代わる視覚映像そのものとするビッグデータや画像処理後のエッジ情報として、活用の領域が広がってきています。さらには画像解析やAIが、カメラ映像のデータと組み合わせられています。クラウドなどのサービスとともに課題解決のためのシステムの形が、業種に関わらず多様に存在してきた実状は注目すべきことです。

本委員会の前身はワーキンググループからの活動でしたが、委員会の発足に至った当初は、映像監視機器の産業統計について機器の分類などを検討していた時期もありました。直近では、カメラ画像の利活用に関し、個人情報とプライバシーの保護観点に対する見識も他の委員会と共有していました。

カメラ映像を使って様々なサービスを展開しているベンダ様と交流を持つことも行い、特に新しいものについては、実地調査を行うことで、共創的で標準的なシステムモデルを啓蒙することも活動として取り組みました。

検討課題として解決事例についても協議していく中、セキュリティ領域以外にも展開され始めていることに着目しました。このたび、活用し得るシステムの形やサービスについて、株式会社テクノ・システム・リサーチ様の委託調査結果をもとに、システム構成と採用技術の両面から、市場動向、技術動向を整理し、有益事案について検討、確認した内容を報告書として記しました。

カメラを使った映像システムは、監視用途以外へ広がり始めています。用途に加え、各種センサーとの連動や枠を超えたシステム連携も形になってきました。豊かな社会に貢献できるシステムソリューションのヒントとして、また、人間の眼に代わるカメラを用いたシステムの展望、人間の眼を超えたソリューションの展開等のご参考になれば幸いです。